

【氏名】金 銀眞（きむ うんじん）

【所属大学院】（助成決定時）東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻

【研究題目】

韓国における中心地（鍾路）の近代都市空間性の変遷過程に関する研究

【研究の目的】

本研究の目的は、日本の都市史について研究が蓄積された経験と実績を生かし、それらのことをベースにして、韓国のソウルにおける鍾路としての近代化過程の変化を明らかにすることである。

本研究では、日本によって統治されていた韓国におけるソウルの中心地、鍾路を中心に考察を行う。ここでの植民地初期とは、1910年8月29日から1919年までを指す。1919年3月1日に独立運動が起き、総督府による統治政策が変わる分岐点になっており、筆者はこれを基準にこの時期を植民地初期として設定する。この時期の鍾路通りの都市空間の役割を史料を通じて明らかにすることによって、植民地初期のソウルの中心地における朝鮮総督府の政策による都市空間の変遷過程を明らかにする。

【研究の内容・方法】

本研究では、鍾路の昼から夜へ拡がる商業空間に対する内容である。方法として、本研究で用いる史料は、主に『毎日申報』や公文書としての『朝鮮総督府官報』や朝鮮総督府の記録である。『毎日申報』というのは1910年から1945年まで継続的に発行されていた唯一の新聞であり、特に、当時の人々の日常生活の視点から植民地期を研究するために、一次的な史料として貴重なものである。また、建築学において、特に韓国の近代都市史に関する研究では新聞を主な史料として用いられたことはほとんどなく、本研究は今までの研究とは異なる分析の方法を試みることになる。

「夜市」というのは、春から秋までの期間に、夕方から夜まで一時的に開かれる露店のことであり、日本の「夜店」と似たものである。露店は以前からあったが、植民地初期に入って初めて夜まで営業するようになっており、「夜市」がどのような経緯で生じてきたか、及びその形態や役割について史料を通じて解釈することにする。

「夜市」の発生地については、「太平通夜市」が最初の場所として1914年から始まったことが分かる。太平通とは日本人が中心になっていた地域である。すなわち、「夜市」は韓国人地域から始まったのではなく、日本人地域で商業の手段として先に出現していたと言えよう。その「太平通夜市」の影響をうけ、2年後の1916年の鍾路において、「鍾路夜市」が出現していた。

「鍾路夜市」を主催していた人物像が浮かび上がる。まず、松井鍾路警察署長が夜市の

必要性を述べ、それを背景に韓国人 3 人が「鍾路夜市」を開催する主体となっている。このように彼らによって「鍾路夜市」が発起されたことが分かる。

また、「鍾路夜市」を開催する目的については、朝鮮時代から鍾路はすでに盛り場になっており、鍾路警察署長としては、「鍾路夜市」を行うために街路の電灯やガス灯などのインフラが整備されることを期待していたと思われる。そのようなインフラの整備により、商業空間の一日は昼だけのものから夜まで広がる一方、治安という観点からみると、統治者側にとっては一般市民のコントロールがしやすくなり、一般市民にとっては安全に生活ができるようになったと推察される。さらに、「鍾路夜市」は一般市民に対して雇用機会を与えることも目的としてあり、当時は、夜の商業活動がほとんど存在しなかったため、新たな商業手段であったと言える。

「鍾路夜市」は日本の銀座の夜店と類似した形態であると考えられる。当時は植民地統治において日本化政策が始まっており、「鍾路夜市」は必要性を述べたのも管理者も日本人で構成された警察署であり、特に「鍾路夜市」の初日には妓生を出演される仮装行列が行われていたが、こうしたことは当時まで韓国では見られなかった。つまり、仮装行列というのは日本の祭りに近いと言える。そして、「鍾路夜市」と銀座の夜店はその規則や露店形式は類似しており、一方、銀座の夜店とはその形式は一週間の休業で許可が取消された点や常設的な平日露店であった点は少し異なっている。特に植民地という特殊な状況からみると「鍾路夜市」は銀座の夜店をモデルにしていたのではないかと考えられる。

【結論・考察】

昼から夜へ広がる商業空間の面としては、鍾路を中心に見てきた。大韓帝国時代まで商業は昼しか営業していなかったが、植民地初期に入って鍾路警察署の支援により「鍾路夜市」が設けられていた。それ以前の街路では夜の生活が本格的に発達していなかったが、そのきっかけとして夜が明るくなって一般市民は買い物のみならず、夜の街歩きを楽しむように鍾路の空間が変化していたことが明らかである。

すなわち、植民地初期において朝鮮総督府は強権的な統治手段を取らず、夜市や行事などのソフトな統治手段を用い、一般市民に朝鮮総督府が統治する正当性を演出しようとしていた。ソフトな統治手段によってソウルの都市空間は都市計画が実現されるより、むしろ庶民的、あるいは行事的な面が浮き出す特徴を見出せるのである。